



地下街探検

第四回

ウイング新橋

新橋駅汐留側の駅広場地下にある地下街が「ウイング新橋」。店舗数二十六店という小さな地下街だが、JRの地下改札、都営地下鉄浅草線改札、地下鉄銀座線に通じる通路の真ん中という、常に人通りが多い立地にある。

地下街の中には新交通ゆりかもめの乗り場へと通じるエスカレーターもあり、汐留シオサイト方面へも通じている。

一九七二年に、「しんちか」という名前でオープン。京急新橋地下駐車場と一体開発された。この時期、国内でモーターゼーションが一気に進み、八重洲や新宿など、都心の駅前に駐車場と地下街が一体化した施設が次々に造られていた。

それ以前の新橋駅前には、戦後闇市の名残りが漂う街だった。それらを整理して、六六年には汐留側の新橋駅前ビルが、そして七一年には烏森側のニュー新橋ビルが竣工。「しんちか」は、この新しい時代の新橋にできた地下街だったのだ。

それから四十三年、途中何度か

のリニューアルを経て、三年前の二〇一二年の大リニューアルでは、女性をターゲットとした店舗構成となる。「オヤジの街」と言われる新橋で意外と思うが、よく考えてみると新橋でもオヤジ度が高いのは烏森側。こちら汐留側はシオサイトや、銀座の入口にあたり、客層も異なる。

飲食店のなかでは、七二年のオープン時から続いているラーメンの老舗「麴処直久」のほか、スイーツの店も何店かあって通路には甘い香りが漂っている。ヨーロッパの街角にあるような花屋さんや、おしゃれなコーデイネットが目を引くブティックに服飾雑貨店。高級スーパー「もとまちユニオン」の小型店もあって通勤途中の買い物にも便利。新橋で意外な存在感を示すハイセンスな地下街となっている。

地下街コラム

鉄道発祥の地で交通の要衝である新橋。ウイング新橋が開業した後も、新たな路線や駅が誕生し、人の流れは増え続けてきた。七六年にはJR横須賀線が東京駅―品川駅間で地下化。新橋駅にも地下ホームができた。二〇〇一年には臨海部とを結ぶ新交通ゆりかもめの新橋駅が開業。貨物駅であった汐留も再開発され、シオサイトとしてにぎわっている。

